

海の向こうから

みなさん、こんにちは。いかがお過ごしですか？2013年度も終盤を迎え、今年度もたくさんの隊員が広島県から世界各国へ出発しました。そんな現地隊員の方々からお便りが届いています。派遣中のみなさん、くれぐれもお身体には気をつけて、充実した2年間を送ってくださいね。さて、今年度の会報誌も「会長挨拶」からスタートです！

会長挨拶

青年海外協力隊広島県OB会
会長 皿海 博信さん
(H15-2 タンザニア 自動車板金)



「三年目を迎えて」

皆様、お元気ですか？

広島県OB会の会長をやらせて頂いて、気がつけば2年、本当に「あっ！」という間に過ぎて行きました。何かと至らない私ですが、来年度は会長として何とか三年目を迎えようとしています。

これも会員皆様はじめ、育てる会の皆様、協力隊を応援して下さる多くの皆様のご理解とご協力があったの事と感謝しています。ありがとうございます。

25年度は多くのイベントや行事に、沢山の方に参加していただきました。これらのイベントや行事を企画運営していつも思うのは、「皆さんの助けがないと何もできない」と言うことです。例えば、企画ひとつとっても、「三人寄れば文殊の知恵」、色々な個性の人が集まって企画すれば、かなり面白いものができると思います。

今後もOB会は少しでも多くの方に参加していただけるよう、また参加してよかった、有意義だったと思えるような、企画運営を行っていきたく考えています。今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

広島から海の向こうに派遣中の皆様へ

世界各国に派遣中の皆さん、お元気ですか？任国での生活、活動はいかがですか？

もしかしたら、毎日が充実していて楽しくてしょうがない方、反面、壁にブチ当たって苦しい時を必死で耐えている方もられるのではないのでしょうか？

私、協力隊派遣中から思っていました、2年と言う時間なんて本当～～に「あっ！」という間ですね。OB会の会長をやらせていただいて2年、結局、日々の仕事や生活の中で、「あれもしたい、これもしたい」と思っている、思うように物事が進まないことが本当に多いですね。

最後は自分の気持ちの問題だと思うのですが、物事に対するモチベーションだったり、気持ちを奮い立たせるやる気が大切なんですよ。多分日本での生活も、派遣任国での活動も同じですよ。月並みですが、最後は自分次第、元気でがんばってください。

OBで集まると、「マラリアにかかった」とか「高熱が出た」とか、任国での病気が武勇伝の様にネタになる事がありますが、本当は「2年間病気にかからず元気で帰ってきました」と言うのが自慢ですよ。元気があれば何でもできる！！

海の向こうの広島は、今も変わらない時間が流れています。文字通り、海の向こうから皆さんの活躍を祈っていますよ。体に気をつけて、元気いっぱい！キラッ！キラッ！輝いてください。

おそらく、こんなに輝ける瞬間は人生で何度もある瞬間ではないと思います。

また広島でお会いしましょう！！

OB紹介

帰国されて、日本で活躍中のOBの方を紹介します！

服部 美樹子さん

(H22-2 フィリピン 村落開発普及員)



1. 派遣中の活動
山間の村にある役場に配属になり、役場職員を始め地域の人々と協力して地域の生計向上に取り組みました。具体的には、人々の抱える悩みや問題を調査するインタビューやワークショップ、有機農業普及活動のサポート、地域のお母さん達とのアクセサリー作りとその販売等。
2. 派遣前の職業・経歴
大学院を卒業したばかりでした。
3. 帰国後の職業
地元の企業で翻訳事務の仕事をしています。
4. 協力隊参加のきっかけ
小さな頃から海外で働く事が夢でした。特に大学に入ってから、国際協力の現場で働く事を目指し、関連した事を勉強してきました。卒業後すぐに、海外のフィールドで働きたいと思い参加しました。
5. 協力隊に参加した感想
派遣中、活動に行き詰まり、私が協力隊に参加した事は本当に良かったのか悩む事もありましたが・・・やっぱり、自分自身にとって貴重な2年間だったと感じています。協力隊だったときには、正直言うと、自分が人様の役に立てたことよりも、任地の人々をはじめ周りの人々に助けられ学ばせてもらった事の方が多かったと感じています。協力隊としての任期は終わってしまいましたが、この2年間で出会った人々とのつながりや、学んだことを活かして、これから少しずつ返していけたらいいなと思っています。
6. 帰国後、任国へは？
いいえ。メールなどで連絡はとっていますが、行ってません。日本に滞在しているフィリピンの人は多いので、街中でフィリピンの言葉を耳にすると、懐かしくなります。感覚的には、「外国」というよりも「地元」という感じの方がしっくりきますね。今度、またまった休みを利用して、第二の地元へ里帰りしたいです。

中林 英雄さん

(H18-1 タイ PCインストラクター)



1. 派遣中の活動
小中学校でパソコンや日本語を教えていました。
2. 派遣前の職業・経歴
民間企業の会社員
3. 帰国後の職業
JICA ラオス事務所で3年間働いた後、現在は帰国し、民間企業で働いています。
4. 協力隊参加のきっかけ
海外で働きたい、生活したい、自分の力を試したいと思い参加しました。
5. 協力隊に参加した感想
日本で生活していたら旅行とかでも絶対行かないような町で働くことができ、多くの出会いがあり、とても貴重な経験をさせていただきました。でも、30代からの協力隊参加で、その後も3年間在外での勤務だったため、帰国後の就職がとても大変でした。ラオス滞在中の休暇を利用して行きました。カウンターパートや子どもたちと徐々に会えて嬉しかったですが、タイ語がなかなか出てこなくて苦労しました。また、隊員の時はなかったのに、任地の小さな町にKFC(ケンタッキー)ができていたのにはビックリしました。でも、隊員時代に住んでいた家の前にあったカオソーイ(カレーラーメン)屋は以前と変わらぬ美味しさでした。
6. 帰国後、任国へは？



着任紹介

JOCA 中国支部に新しく着任されました増田さんをご紹介します！

増田 勇希さん (H18-2 ルーマニア 環境教育)



皆さんはじめまして。7月よりJOCA中国支部に赴任しました増田勇希と申します。18年度2次隊としてルーマニアで環境教育隊員として活動していました。帰国後はJOCA本部、神奈川にある「あーすプラザ」という教育施設に勤務、今回、支部長の交代と共にこちらに赴任しました。中国地方で生活するのは初めて、広島弁、お好み焼き、カーブ、まだまだ広島については分からないことだらけですが、OB会の皆さんと一緒にいろいろなチャレンジをしていきたいと考えていますので、宜しくお願いします！！



現役隊員レポート

松原 勇作さん

(H24-1 スリランカ ソーシャルワーカー)



【任国の様子】

常夏の島国。近年、都市部は急激に発展しており、道路や建物が日に日に整備されていっています。それでも農村部はまだまだ田舎、ゆったりとした時間の流れが心地いいです。

【現在の隊員活動の様子】

基本的には任地地域内の老人会や老人ホームなどを巡回し、健康チェックや健康体操、レクリエーションなどを実施しています。

最近では、運動機能測定や介護予防ラジオ体操の導入し各方法を任国省庁に紹介・提案できるように各地でワークショップや事例となるケースを作っています。

残された期間で今考えていることがどれだけできるかわかりませんが、しっかり活動…というよりは、任国の人々とたくさん笑って過ごす時間が増やすことができればいいなと、思っています。

派遣中の3名の隊員からお便りをいただきました。お便りをくださったみなさま、本当にありがとうございました！



ちから
山本 主税さん

(H24-3 カメルーン 村落開発普及員)
(現：コミュニティ開発)



【任国の様子】

275以上の民族がひとつの国に暮らしており、現地語がそれぞれの地域によって違うため、公用語のフランス語と英語が使われています。文字の文化がなかったためか、人々は話すことが大好きで、特にお酒が入ったあとのカメルーン人は饒舌！

【現在の隊員活動の様子】

現在は水の防衛隊活動、農業、商品開発の3つの活動の柱を立てて活動しています。私の任地の村では、住民は足場の悪い崖下の湧き水から飲み水を得ていました。この環境の改善のために市場の壊れていたポンプ式井戸の修理を実施。現在は村で水の技術者育成を行い、近隣ポンプに対しての低コスト修理アプローチを計画中です。また水質検査も同時に行い、近くにあるポンプ井戸から、みんなが安心して水を汲める未来を目指して活動中です！



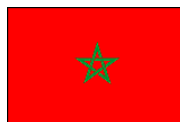
(ポンプ井戸修理時の様子)



(アフリカ布の歯切れを使ったシューズバッグの試作品)

宇根川 杏子さん

(H25-1 モロッコ 看護師 (学校保健))



【任国の様子】

私の任地はアトラス山脈とサハラ砂漠に挟まれたエルラシディアという地域です。アトラスからの豊富な水のおかげで水不足にはなりません、空気は乾燥しており、時折、砂嵐に襲われます。この地域にはアラブだけでなくベルベル民族も多く住んでおり、ほとんどがイスラム教徒です。そしてアラビア語・ベルベル語・フランス語が入り混じった会話が聞かれます。人々は友好的で、仲良くなるとすぐに家に招待してくれ、タジンやクスクスをご馳走してくれます。ほぼ毎日、モロッコ人宅に通っている隊員もいるほどです。

【現在の隊員活動の様子】

私は学校保健に携わる看護師として現在3つの小学校を巡回し、衛生管理・運動の重要性を伝えています。家族関係を重んじるこの国では特に、学校保健は地域にとって重要な役割を担っていると感じています。生徒が学校で学んだ事を家族に伝え、そして家族が近隣住民に伝える。学校が情報発信の場になればと思っています。現在はまだ活動を開始したばかりで情報収集に追われ、前任者の活動を追っているだけですが、今後も現地の人々とともに子ども達の健康維持に対して何が出来るか考え、実践していきたいと思ひます。子どもたちの笑顔に癒されながら頑張ります！



羊の尾を持って笑顔！



小学校にて朝のラジオ体操準備

平成25年度イベント報告

今年度の三大ビッグイベントの報告です！

中国ブロック交流大会

信時 一夫さん
(H16-2 ラオス 養殖)



2013年8月3、4日に鳥取県岩美郡岩美町において、『中国ブロック交流大会』が開催されました。広島県OB会からは、皿海会長をはじめ、15名が参加しました。

1日目は、オリエンテーションのあと、体験活動が行われました。体験活動は、海水浴、遊覧船、シーカヤック、陶芸、絞り染めなどに分かれて行われました。浦富海岸は、山陰海岸国立公園に指定され、日本海の荒波によって形成された大きな海岸地形をしており、洞門、洞窟、白砂の浜など、様々な地形を観察することができます。OBの日ごろの行いが良いのか、天候にも恵まれ、各々体験活動を楽しむことができました。

体験活動のあとは、バーベキュー会場へ移動し、日本海に沈む夕日を見ながら、美味しい鳥取の魚介類を満喫しました。その後、民宿にて2次会が開催され、協力隊の話題で盛り上がりました。

2日目は、朝6時から民宿近くの砂浜において、60名ほどで地引網を曳きました。待望の収穫はカンパチの稚魚と鱸のわずかでしたが、養殖隊員ということで、間八の名前の由来などを皆さんに説明することができました。鳥取OBいわく、地引網は小学生のようにゆっくりと曳いたほうが、網の底が浮かないため、魚がたくさん入るそうです。その後、民宿に戻り、漁師さんからいただいた新鮮な魚が朝食にでました。

来年の中国ブロック交流大会は山口県で開催されるそうです。



国際協力・交流の日

皿海 博信さん
(H15-2 タンザニア 自動車板金)



11月、14回目を迎えた「国際交流・協力の日」に今年も参加しました。20の国際交流団体が出店した「世界の屋台」の一角で、OB会として、セネガル料理（鶏炒めご飯、ハイビスカスティー）の店を出店。任国や協力隊の説明を行いながら販売しました。今年は屋台の後に新たに「トークカフェ」をセッティングして、来場者の方々と協力隊の体験談などを話すなど、多くの方と交流を持つことができました。

また、「JICA ボランティア体験発表会」も行き、柳楽真太郎さん(H22-3 タンザニア 理数科教師)と、大宮加代子さん(H23-1 フィリピン 言語聴覚士)の二人が、任地での活動紹介や、心に残ったエピソードを発表しました。



第2回スキルアップセミナー

(2013.10.27)

中林 樹理さん
(H18-1 タイ 養護)



今年度第2回目のスキルアップセミナーは、国際交流・協力の日にOB会が実施する屋台の調理実習、午後からは体験談発表のリハーサルの二部構成で実施しました。

第一部では、セネガルOV 橋田亮平さん (H21-2)、伊藤えいさん (H21-1) を中心に、アフリカのセネガル料理2品「ヤッサ・ギナール (鶏肉の玉ねぎソース炒め)」と「ファタヤ (セネガル風餃子)」を調理しました。

最初に、参加者が任地で好きだった食べ物を含めた自己紹介をしました。次に、セネガルOV から「屋台提供時の正確な分量レシピの決定」「実際に屋台に提供する時に気をつけるべき点」を意識して調理するよう話がありました。そして、3グループに分かれ、調味料の分量を少しずつ変えて調理。その後、調理の仕方やレシピの改善点などの意見を言い、試食しました。一番おいしかったチームのレシピを本番にも採用することに。ちなみに屋台では「ヤッサ・ギナール」を提供しました！任国のお茶や飲み物も持参して、多彩な食を楽しむ事ができました。



調理の様子



これが「ヤッサ・ギナール」！

第二部では、国際交流・協力の日の、体験発表を念頭に入れ、発表練習をしました。今年、体験談の発表方法を従来のスタイルに戻し、1人25分間でOV二人に発表してもらいました。発表者のタンザニアOV柳楽慎太郎さん (H22-3理数科教師)、フィリピンOV (H23-1言語聴覚士) から、初めに、発表する上でアドバイスが欲しい点についてプレゼンがありました。参加者は、それを念頭に発表を聞きました。発表後に参加者から、感想や強調すべきポイントや、間の取り方、適度な写真の枚数、任地の人とのかかわりについて質問や意見、アドバイスが出ました。また、発表者からは視覚的効果を狙ったAV機器の使い方について紹介がありました。

第一部、第二部とも、活発な意見交換がなされました。また、隊員OBの知合いの方も一般参加され、隊員の理解に繋げる一助にできたスキルアップセミナーとなりました。



被災地支援報告

細川 光宣さん
(H8-2 パプアニューギニア 木工)



東北支援、継続中・・・

青年海外協力隊広島県OB会では、2011年の震災発生以降支援活動を継続しています。昨年は、JICA 中国および青年海外協力隊を育てる会からの支援を受け、宮城県気仙沼市大島で、漁業支援を行いました。

宮城県北部から岩手県沿岸のリアス式海岸は、天然の良港であり、ワカメ・カキ・ホタテなどの産地でした、しかし津波により、養殖筏が流されてしまいました、元の生活に戻るためには、養殖筏再建に必要な資材と人手が必要な状況でした。

広島でできる限りの支援を続けています。

以前から行っていた国際協カイベントに東北支援物産展を出させてもらい、東北産の海産物販売を行っています。今後もできる限り協力を継続する予定です。



山口豪雨災害支援

隣県の山口でも大規模な豪雨災害が起り、支援活動に参加しました。東北震災以来、大小さまざまな災害が頻発しています。東北震災支援を経験し災害支援に敏感になっているからそう感じるのか、気候変動により以前より災害が起りやすくなっているのかわかりませんが、今後ともできる範囲で、震災支援活動を続けていく予定です。



HOCA ほかプロジェクト報告

中山 駿さん
理数科教師



(H23-1 タンザニア

昨年の12月にHOCA ほかプロジェクトによる支援金をいただき、配属先に学校で、図書館整備を進めてきました。その報告をさせていただきます。

支援をいただいたのは私の配属先のラハレオ中等学校で、タンザニア南部ムトワラ州の中等学校です。ラハレオ中等学校をはじめとするタンザニアの多くの学校はタンザニア政府の教育推進政策により2000年代初期に数多くできたディス쿨で、これらの学校は総じて電気、実験室、図書室、トイレなどの設備が整っているとは言えません。

ラハレオ中等学校では、支援による教科書類が多く入ってきているのですが、それらが職員室や校長室に山積みになって、教員や生徒が自由に借りたり読んだりすることが難しい状況になっていました。また、多くの生徒が教科書を持っていないこと、教員の板書ミスなどにより、教科書代わりともいえる生徒の授業ノートが完璧ではない事などから、生徒の自主学習の質の低下、間違った知識をそのまま覚えてしまうという事が起こっています。

校長の教科書を有効活用し、生徒の学力向上につなげたいという強い要望を受け、HOCA ほかプロジェクトの支援を申請する事となりました。

図書館を整備することにより、上記の問題を解決するとともに、生徒が快適に自習できるスペースの確保、自由に本を借りることができる環境の提供し、結果として生徒の学力向上、学習意欲の向上、サイエンス分野の多くの図や写真入りの教科書を利用する事による興味促進を期待しています。

整備にあたっては、私はできるだけ口出しをせずに、校長主導のもと学校で行うプロジェクトという位置づけで実施しました。校長が教員に指示をだし、多くの教員が図書館整備、整備後の運営について具体的な仕事を割り振られることで、自分たちのプロジェクトだと意識するようになったと感じます。例えば予算作成、職人との交渉、JICA マーク・OB 会ロゴの記入、本の整頓方法の考案、今後の運営方法など多くの教員がこのプロジェクトに携わってくれたので、これからはしっかり利用してくれるのではないかと期待しています。

帰任直前まで整備に時間がかかってしまったこともあり、私が実際に利用状況を見ながらアドバイスしていくという事はできませんでしたが、幸いにも私と入れ替わりで後任がきたこともあり、私の代わりに運営などの面で見守ってほしいと思っています。

私自身も後任と連絡を取り、日本から見守っていきたいと考えています。



派遣前アンケート

派遣前訓練を無事に終えられた隊員の方に聞きました！
平成24年度3次隊から平成25年2次隊までの方々です
(回答のあった人のみを掲載しています)。

【アンケートの内容】

- ① 名前
- ② 隊次／派遣国
- ③ 職種
- ④ 応募したきっかけ
- ⑤ 訓練所での辛かった思い出
- ⑥ 訓練所での楽しかった思い出
- ⑦ 活動中に挑戦したいこと
- ⑧ 出国前の心境
- ⑨ 意気込みを一言！



- ① 山本 主税
- ② 24-3／カメルーン
- ③ 村落開発普及員
- ④ “農”が生まれた地で、“農”を知りたい。
- ⑤ カメムシの大量発生。語学(汗)
- ⑥ 隊次のポロシャツのデザインと食事。
- ⑦ 原爆展に興味があります。農業に特に力を入れたいです。
- ⑧ 不安もありますが、それ以上に期待に満ちています。
- ⑨ 現地の人と一緒に活動を行っていきたいと思います！



- ① 中川 大輔
- ② 24-3／モザンビーク
- ③ 農業土木
- ④ 小さいころからと途上国での食料生産に興味を持っていたため。
- ⑤ 語学学習や時間厳守で行動が制限されていたこと
- ⑥ 全て。辛かった語学学習も仲間と一緒に乗り越えていくことができた。自主講座の開催・参加、スポーツ、週末の楽しいお酒、充実していました。
- ⑦ 現地の人のニーズをしっかりと捉えて応えること。
- ⑧ 楽しみ!
- ⑨ 2年後の自分の姿を楽しみに元気に帰国したい！



- ① 中尾 文拡
- ② 24-3／ミクロネシア
- ③ 漁業・海事学校(溶接)
- ④ 幼い頃からの夢でした。
- ⑤ 語学研修。教師との楽しい会話を通しての語学マスター。
- ⑥ 若い人との交流
- ⑦ 自分自身の力の試し
- ⑧ 頑張ります！
- ⑨ 頑張ります！



- ① 三好 佑生
- ② 24-4／ペルー
- ③ 環境教育
- ④ 父の友人が昔、協力隊に参加していて身近な存在でした。自分が出来る事があればと思い応募しました。
- ⑤ 雪深い長野ではほとんど外に出れず、リフレッシュ出来ない事が多かったです。もっと駒ヶ根が知りたかったです。
- ⑥ 語学で自分の言いたい事が言えた時は気持ちがよかったです。74名全員で合格出来たときは感動しました。課外で皆で練習したサルサはペルーでも続けたいです。
- ⑦ まずは現場に足を運んで問題点をリサーチすること。「百聞は一見にしかず」のまま地元に着きたい。
- ⑧ あっという間にこの日が来て、さびしさと期待で複雑な気持ちです。
- ⑨ 日本のファンを一人でも増やして無事帰ってきます！



- ① 柚木 秀徳
- ② 25-1 / エルサルバドル
- ③ 理数科教師
- ④ 高校のとき、社会の時間に協力隊について聞き、いつか参加したいと思っていました。途上国での理科の現状を知り、自分の力を少しでも役立てたいです。
- ⑤ 語学はまだまだなので、ついていくのがやっとでした。特に前半はきつかったです。
- ⑥ 生活班や語学クラスでたくさんの人に会い、たくさんのことを学べたことです。また、活力ももらいました。
- ⑦ 少しでもたくさんの実験を取り入れられるように、身近なものを使った実験に取り組んでいきたいです。
- ⑧ 早く任国の生活に慣れるように頑張りたいです。
- ⑨ 生徒の中で一人でも理科が好きになったという人が出てくるようにしたいです。



- ① 空本 季輝
- ② 25-1 / ペルー
- ③ 野菜栽培
- ④ 海外の新しい物も環境もきびしい場所で自分の可能性を試したいと思ったから。
- ⑤ 語学訓練と通常とは異なった生活環境の中での生活。
- ⑥ 同じ目的を持った仲間と辛い事と楽しい事、どちらも一緒に出来ること。
- ⑦ 小学校へ派遣されるので、学生に日本を紹介してみたい。
- ⑧ 期待と不安はあるが、一番は楽しみです。
- ⑨ 2年間自分なりの活動をしていきたいと思っています。



- ① 大田 遥
- ② 25-1 / タンザニア
- ③ コンピュータ技術
- ④ 海外で自分の持っている技術を生かせれば良いと思い応募しました。また、高校時代や大学時代の友人が協力隊に参加していたため、自分もやってみようと思いました。
- ⑤ 集団生活で一人になる時間が少なかったこと。休日が一日しかなかったこと。
- ⑥ 班員や語学クラスなど、多くの友人ができ、刺激し合えたこと。
- ⑦ 任地での原爆展の開催、キリマンジャロ登山。
- ⑧ 不安半分、楽しみ半分です。自分の職種の仕事をちゃんと全うできるか、心配の方が多いかもしれません。
- ⑨ マイペースに無理をせず、タンザニアを好きになって帰れるようがんばります！



- ① 谷本 恵子
- ② 25-1 / ドミニカ共和国
- ③ 診療放射線技師
- ④ 中学生の時、母校に卒業生の方が体験談をお話にこられたのがきっかけです。
- ⑤ 語学でなかなか上達しなかったこと。
- ⑥ 仲間ができたこと。一緒に泣いて、笑って、たくさんおしゃべりしたこと。
- ⑦ 挑戦できることは何でもやりたいです。
- ⑧ 楽しみ半分、不安半分。
- ⑨ 自分の悔いの残らないように、一生懸命がんばりたいです。



- ① 横竹 歩
- ② 25-1 / ドミニカ共和国
- ③ 環境教育
- ④ 中学生の頃から協力隊にはいつか参加したと思っていた。日本とは違う文化・環境を経験し、色々な考えを持った人と話をする事にとても興味を持っている。
- ⑤ 語学の勉強が思うように進まなかったこと。
- ⑥ いろんな経験をしてきた人々と話し、知り合えたこと。
- ⑦ 原爆展の開催。
- ⑧ 不安と期待が混ざって、不思議な気持ちです。
- ⑨ あわてず地道に、そして楽しく活動して来ます！



- ① 大田 真弓
- ② 25-1 / ケニア
- ③ エイズ対策
- ④ アフリカが好きだから。アフリカ人が好きだから。
- ⑤ 野外訓練でテント泊をした翌日に、ウォークラリーで12km歩いたこと(テントが極寒で全く眠れなかったのも)。
- ⑥ 語学クラス。和気あいあいと楽しく過ごせました。
- ⑦ 限りなく現地の人たちと同じ生活と目線で暮らしてみたい。
- ⑧ 不安と楽しみが半々。
- ⑨ あきらめず、前向きにがんばりたいです。



- ① 前田 奈緒里
- ② 25-1 / ブータン
- ③ 食品加工
- ④ 現職教員参加制度を知り、任国での仕事を帰国してからも学校で生かしたいと思ったため。
- ⑤ 体力維持。
- ⑥ 隊員候補生との交流。
- ⑦ 任務だけでなく、現地の楽器に挑戦してみたい。
- ⑧ 平常心。
- ⑨ 健康に気をつけて無事に帰ってきたいです。



- ① 新村 桂
- ② 25-2 / モザンビーク
- ③ 青少年活動
- ④ 高校生の時に、ベトナムの孤児院でのボランティアに参加して大きな影響を受けた。国際交流をすることで世界が広がるので。モザンビークの子供たちにも、日本の子供たちにも、それを伝えられる存在になりたい。
- ⑤ 語学が大変だった。毎週テストがあり、すごいスピードで授業が進むので…。しかし、最後に日常会話ができるくらいになり、とても嬉しかったです。
- ⑥ やはり語学です。どんどん先生の言葉が聞き取れるようになり、ポルトガル語で冗談が言えるようになったときは嬉しかったです。
- ⑦ モザンビークの楽器やダンスに挑戦したいです。
- ⑧ 不安2割、楽しみ8割です!!!
- ⑨ モザンビークを大好きになって、日本のことを大好きになってもらえるように頑張ります!!!



- ① 加藤 麻実子
- ② 25-2 / ガーナ
- ③ 服飾
- ④ 姉が元隊員で、その影響で。
- ⑤ 語学のワークショップの準備。
- ⑥ アウトドアキャンプ。
- ⑦ 2年間で現地語を覚える。
- ⑧ 主に不安が大きい。
- ⑨ がんばります。



- ① 里永 章
- ② 25-2 / フィリピン
- ③ 農業協同組合
- ④ 開発経済に興味があり、自身の持つ農業分野で挑戦してみたいと思ったため。
- ⑤ 集団生活に慣れることが難しく、日々ストレスがたまったこと。
- ⑥ 今後、一緒に仕事をしたいと思える人との出会いがあったこと。
- ⑦ 人と人とのつながりを創ること。帰国後も見据え、フィリピンと日本をつなげることのできる隊員になる。
- ⑧ 早く行きたいという思いだけです。
- ⑨ 人との出会いを大切にして、必ず無事に帰ってきます。



お知らせ

2月に計画されている2つのイベントのお知らせです。
たくさんのおBの方々に集まっていただき、盛り上げていきたいと思っております！

留守家族連絡会

派遣中の隊員のご家族の意見交換・交流の場として愛されてきた『留守家族連絡会』、今年度も開催されます。いろいろな話が聞けるので、ぜひご家族に連絡してあげてくださいね。

次の日程で、派遣中の留守家族を招いて連絡会を開催します。

- 日時：平成26年2月1日（土）
（スタッフは、午前9時頃より準備開始）
- 場所：留学生会館（JR広島駅近く）
- 内容：OBの帰国報告に加え、OB達が任国料理を振る舞い、ご家族が「うちの娘(息子)はこんな料理を食べていたんだ?!」と盛り上がるイベントです。またご家族の皆さんの自己紹介は、毎年笑いあり、涙ありで大盛況です。自分自身の派遣中は全然気付かなかった「親の思い」もわかります。



海田駅伝

冬と言えば「マラソン」、そして「駅伝」です！
今年度もぜひ、OB会チームで参加し、青年海外協力隊をアピールしていきましょう！

日程は次の通りです。

- 日時：平成26年2月16日（日）
- 場所：瀬野川河川敷（海田町）



【編集後記】

今年度、会報誌を担当させていただくことになりました、神原和代です。準備期間が短かったにも関わらず、寄稿・編集にご協力くださった現役隊員およびOBの方々、お忙しい中、本当にありがとうございました。この会報誌を通じて、OB会の情報や世界各国で活躍中の隊員のみなさまの様子を、わかりやすくお伝えできればと思っています。投稿・ご意見・ご要望など、何かありましたら、いつでもお寄せください。お待ちしております！

青年海外協力隊 広島県OB会 連絡先

会 長 皿海 博信（H15-2 タンザニア 自動車板金）
事務局 長 細川 光宜（H8-2 パプアニューギニア 木工）
会報誌担当 神原 和代（H16-1 ミクロネシア 理数科教師）
E-mail：hiroshima_jocv_obkai@yahoo.co.jp